ハンドマイク街頭演説原稿例　ガザ「人道的休戦」決議を歓迎する

二〇二三年十一月一日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　中東では、イスラエルとパレスチナのイスラム組織ハマスとが軍事的にぶつかり合い、イスラエルはパレスチナのガザ地区への攻撃を強めています。双方に多くの犠牲者が生まれ、特にガザの住民は深刻な状況に置かれています。日本共産党は、今回の衝突のきっかけとなったハマスによるイスラエルへのロケット弾攻撃や民間人の連行は、国際人道法に違反するものであり、強く非難するものです。一方、イスラエルのガザ攻撃は自衛権の範囲を超えた「集団的懲罰」というべきものであり、これも断じて認められません。イスラエルに対して、国際法に違反する大規模な空爆と地上作戦を中止することを強く求めます。

　この問題で国連は十月二十七日、人道的休戦を求める決議を百二十一カ国の賛成で採択しました。アラブ諸国やアジア諸国が中心となってまとめられたこの決議は、すべての当事者に対して国際人道法および国際人権法を含む国際法を完全に守ること、暴力のエスカレートを防ぐ最大限の自制を求めています。日本共産党は、この決議を歓迎するとともに、イスラエルとハマスの双方をはじめ、すべての当事者がこの決議に従うこと、国際社会が決議を実現するために最大限の努力をすることを強く求めます。

　一方、この決議に対してアメリカなど十四カ国が反対し、日本など四十四カ国が棄権しました。日本共産党の宮本徹衆院議員が予算委員会でなぜ棄権したのかを質問したところ、岸田首相はハマスなどによるテロ攻撃への強い批判がなく、内容面でバランスを欠いているからだと答えました。しかしながらこの決議は「人道的休戦」に焦点を絞ったものとなっています。確かに決議にハマスやイスラエルを名指しで批判する言葉はありませんが、「パレスチナとイスラエルの市民を狙ったすべての暴力行為を非難」すると明確に述べています。どちらか一方に肩入れするものではなく、賛成しない理由はどこにも見当たりません。結局のところ、この決議案に反対したアメリカの顔色をうかがい、賛成も反対もせずに棄権したというのが本当のところではないでしょうか。

　みなさん、日本はイスラエルともパレスチナとも独自の関係を築いてきました。この立場を生かせば、双方の暴力を止めて住民の命を守るために大きな役割を果たせるはずです。日本共産党は、日本政府がこの立場で役割を果たすことを強く求めます。

　日本共産党はパレスチナの問題を根本的に解決する道は軍事ではなく、パレスチナとイスラエルの二つの国家の平和的共存であると主張してきました。そしてこれこそが国際的な合意であることを、改めて強調するものです。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）